

第3章 地区別デザイン

この「地区別デザイン」は、地区別に「こんな地区にしていきたい」という思いを集め、地区別の将来デザインとしてまとめたものです。

野沢地区

野沢地区の概要

町の南西部に位置し、国道49号や磐越自動車道が東西をつなぎ、JR野沢駅や町民バス・高速バスの発着点があり、商店街や役場、公民館が所在するなど、町の中心地です。

かつての野沢は、越後街道沿いの宿場町で人と物が行きかう交通の要衝であったことから、町並みは今もその面影を残しています。

1月には、野沢初市が開かれ、まちなかのにぎわいから1年が始まり、9月には野沢町内で諏方・熊野神社の祭礼が行われ、五穀豊穡・商売繁盛を願い、山車や神輿が威勢よく町を練り歩きます。

大山祇神社や鳥追観音、安座のおとめゆり群生地、道の駅などの観光スポットがあります。

主な地域資源

大山祇神社・鳥追観音・雷山公園などの観光スポット、
旧越後街道の宿場町の町並み、ふるさと自慢館、味噌ラーメン、
研幾堂と幕末から明治初期に活躍した門人たち、
道の駅にしあいつ（飲食店、農林産物、加工品、張り子、車麩 など）、
磐越道西会津インターチェンジ、町民バス発着点、JR野沢駅など交通の基点、
安座の地形とおとめゆり群生地、安座の景観、野沢初市、酒蔵、代官清水、
ラッセル車、弘法岩屋 など



▲大山まつり

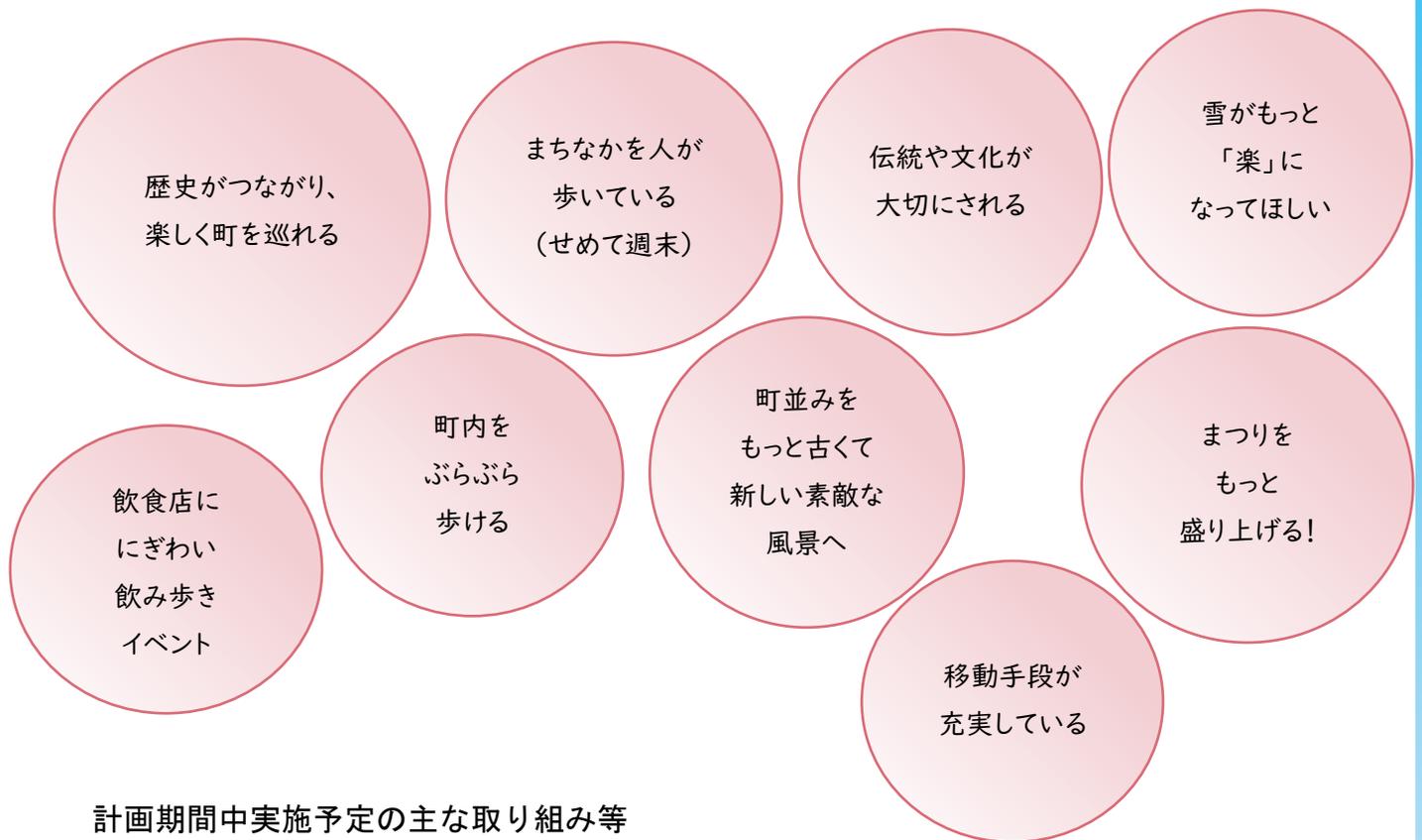


▲野沢初市

野沢地区の将来デザイン

歴史・伝統 未来へつなぐ～もっと歩きたくなる野沢～

「野沢地区をこんな地区にしていきたい」 検討の際に出た主な意見



計画期間中実施予定の主な取り組み等

- 担い手の確保・育成 (まちづくりのツボ)
- しごとづくり (まちづくりのツボ)
- 安心して暮らせる住環境の整備 (まちづくりのツボ)
- 有害鳥獣対策の強化 (2-1 農林業)
- 町内産業の振興及び、商店街等の活性化と事業承継・創業支援 (2-2 商工業)
- 観光資源の発掘と磨き上げ (ブラッシュアップ) (2-3 観光・交流)
- 高齢者福祉の推進 (3-3 高齢者福祉)
- デジタル変革の促進 (4-3 情報通信)
- 各地区の再生・活性化 (5-3 新たなまちづくり)

尾野本地区

地区の概要

町の南東部に位置し、喜多方市や会津坂下町、柳津町と接しています。

平坦部には、西会津中学校や西会津小学校、こゆりこども園が整備されるなど教育・子育ての拠点となっています。また、住宅団地や町営住宅・定住促進住宅などの居住エリア、複数の企業が立地する工業団地、さゆり公園周辺のスポーツ・レクリエーションエリア、診療所や介護関係施設が整備された医療・福祉エリアがあります。農地も広く、稲作や野菜栽培、菌床キノコ栽培も盛んです。

一方、山間部の睦合地区や下谷地区は、集落が点在し、それぞれの地域で独自の地域づくりの活動がみられるなど、尾野本地区は多様な面を持ったエリアと言えます。

主な地域資源

西会津町こゆりこども園、子育て支援センター、西会津小・中学校、町民図書館、住宅団地・町営住宅・定住促進住宅、工業団地、さゆり公園、屋内プール、温泉健康保養センター ロータスイン、国民健康保険西会津診療所、介護老人保健施設 憩の森、特別養護老人ホーム さゆりの園、グループホーム のぞみ、地域ふれあいセンター、出ヶ原和紙、出ヶ原円満寺観音堂、菌床キノコ栽培、天空の郷、ほたるの里、鉱山跡、塩の道、軽沢（東松峠）、木地夜鷹山・百戸沼、旧尾野本小講堂、ライスセンター、雪室貯蔵施設、広い農地 など



▲尾野本地区バレーボール大会



▲西会津中学校

尾野本地区の将来デザイン

あつまる つながる ひろがる 未来

～尾野本にはまりっせ～

「尾野本地区をこんな地区にしていきたい」 検討の際に出た意見

子どもの声があふれる

困ったときは助け合える

あいさつが普通にできる
明るい地区

若い人と交流したい

子どもも高齢者も
明るく生活できる

空き家のない地区

公共施設を最大限に
活かした人の集まる場所

自然や歴史を活かした
観光地づくり

地域の子供達と交流したい

計画期間中実施予定の主な取り組み等

- 担い手の確保・育成（まちづくりのツボ）
- 安心して暮らせる住環境の整備（まちづくりのツボ）
- スポーツ環境の整備（1-4 スポーツ）
- 農林業経営の改善（2-1 農林業）
- 有害鳥獣対策の強化（2-1 農林業）
- 観光資源の発掘と磨き上げ（ブラッシュアップ）（2-3 観光・交流）
- 住環境の整備（移住定住の基盤づくり）（2-4 移住・定住）
- 診療所の充実（3-2 医療）
- 高齢者福祉の推進（3-3 高齢者福祉）
- 雪利用（4-1 雪対策）
- デジタル変革の促進（4-3 情報通信）
- 公園などの管理（4-5 自然・環境保全）
- 各地区の再生・活性化（5-3 新たなまちづくり）

群岡地区

地区の概要

町の中央西部に位置し、西側は新潟県阿賀町と接しています。地区の北側を阿賀川が流れ、並行してJR磐越西線が走ります。地区の中央部は国道49号が通り、会津の西の玄関口とも言えます。旧越後街道沿いであり、上野尻・下野尻地区や白坂・宝川地区は宿場町の名残を残します。

上野尻地区周辺には製造業系企業の立地がみられ、若者などの雇用を担っています。

近年、上野尻地区には空き家などを活用して移住する人が増えており、新たな地域づくりの息吹が感じられます。

鬼光頭川沿いに点在する屋敷地区の集落では、屋敷人形芝居や屋敷萬歳などの民俗芸能やつる細工などの独自の文化が根づいていますが、技術の継承が課題です。

主な地域資源

国道49号、JR上野尻駅・徳沢駅、旧越後街道の宿場町の町並み、旧群岡中学校
銚子ノ口や上野尻発電所の桜などの景勝地、須刈岳、SLの撮影スポット、
屋敷萬歳・屋敷人形芝居、男滝・女滝、お試し移住住宅「O t a m e」
オパール、にこにこ相談所、イザベラ・バード、西光寺、おんばさま など



▲桜の名所 上野尻発電所の桜



▲移住者による新たなチャレンジ

群岡地区の将来デザイン

こしゅしんそう 「古守新創」

一人ひとりの小さなチャレンジが、地域に息づく群岡

「群岡地区をこんな地区にしていきたい」 検討の際に出た主な意見

野に放つ
子育てをしたい

地区行事を
盛り上げたい

チャレンジ
ショップに
取り組んでいく

移住者の
小さなチャレンジが
起爆剤となって
新たな風を生む

子どもと地区
を探検したい

発電所の桜を
バズらせたい

じいばあから
学ぶ百姓学校

遊休農地を
活用していきたい

群岡の盛り上がり
を他の地区に
広げたい

計画期間中実施予定の主な取り組み等

- 担い手の確保・育成（まちづくりのツボ）
- 安心して暮らせる住環境の整備（まちづくりのツボ）
- 歴史資料の保存・活用（1-5 歴史・文化・芸術）
- 有害鳥獣対策の強化（2-1 農林業）
- 観光資源の発掘と磨き上げ（ブラッシュアップ）（2-3 観光・交流）
- 町を知ってもらい 来てもらう（移住の入口）（2-4 移住・定住）
- 高齢者福祉の推進（3-3 高齢者福祉）
- 消防施設・設備の充実（4-4 消防防災・安全対策）
- 各地区の再生・活性化（5-3 新たなまちづくり）

新郷地区

地区の概要

町の中央東部に位置し、東側を喜多方市高郷町と接しています。南側を阿賀川が流れ、対岸に南側から西側に向かって尾野本地区、野沢地区、群岡地区が位置しています。

西会津町縦貫道路整備によって新郷地区や奥川地区へ向かうには改良された町道野沢柴崎線を経由するルートが主流となっています。

他の地区に比べて山地は険しくありませんが、阿賀川沿いの三河地区、豊洲地区から比較的標高の高い富士地区まで、中山間地に集落が点在しています。

喜多方市高郷町との境界部に日本で2番目に高い「富士山」があり、山開きやスノートレッキングなどが開催されるほか、橋屋地区では「橋屋新そばまつり」が開催されるなど、地域主体の取り組みが盛んになっています。

旧新郷中学校の木造校舎を活用した西会津国際芸術村は、様々な分野の芸術家や町外者が訪れ、交流の拠点となっています。

主な地域資源

富士山、新郷六観音、西会津国際芸術村、荒木からの眺望、滝坂の地すべり、旧柴崎橋、陣ヶ峰峠、阿賀川とその両岸の桜、ごしょうまき、高目の清水、木地師の墓、西会津町初の圃場整備事業実施箇所（上の原地区）、西会津町農業公社、笹川、広いそば畑、戸中の船着き場 など



▲西会津富士山 山開き

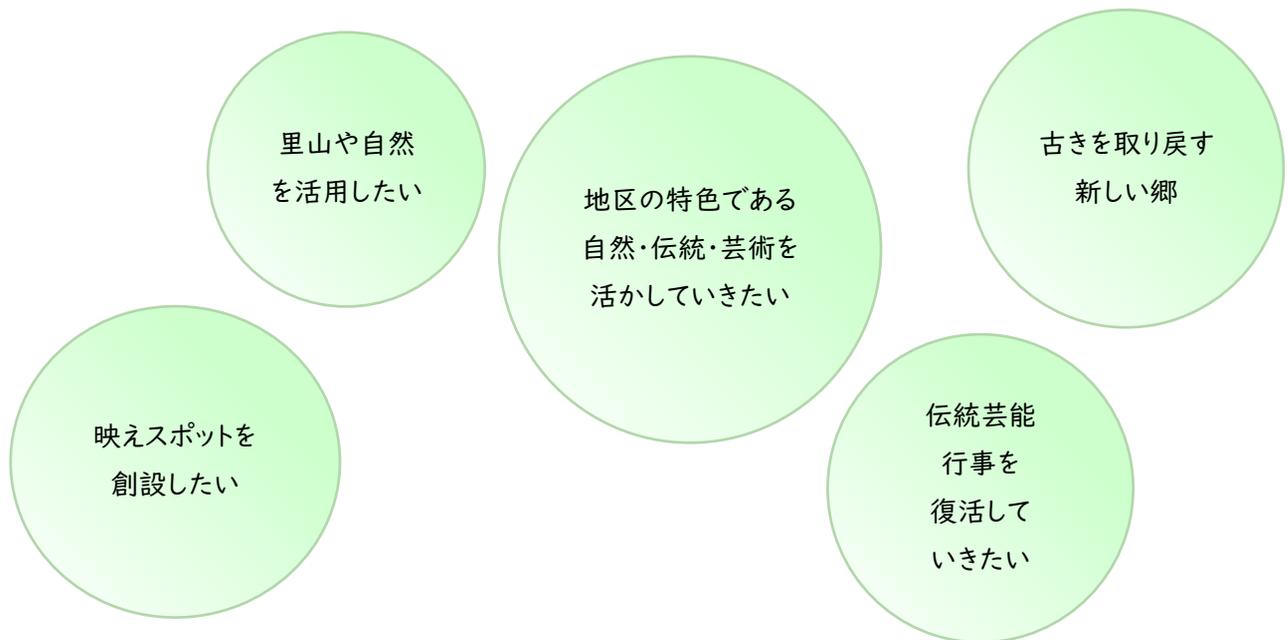


▲西会津国際芸術村

新郷地区の将来デザイン

自然・伝統・芸術が織りなす、新しい郷

「新郷地区をこんな地区にしていきたい」 検討の際に出た主な意見



計画期間中実施予定の主な取り組み等

- 担い手の確保・育成（まちづくりのツボ）
- 安心して暮らせる住環境の整備（まちづくりのツボ）
- 芸術文化の振興（1-5 歴史・文化・芸術）
- 有害鳥獣対策の強化（2-1 農林業）
- 交流人口・関係人口の拡大（2-3 観光・交流）
- 高齢者福祉の推進（3-3 高齢者福祉）
- 集落に暮らす人の元気づくり支援・交流の場づくり支援（3-5 コミュニティ）
- 大学・企業等との交流事業（3-5 コミュニティ）
- 各地区の再生・活性化（5-3 新たなまちづくり）

奥川地区

地区の概要

町の北部に位置し、奥川流域に集落が点在しており、1,000m級の山々が広がり、飯豊山系へ続いています。

交通面では西会津町縦貫道路や国道459号が整備されています。

地域資源を活用した取り組みとして、登山口や溪流釣りを活かした観光が盛んで、シーズンには多くの登山者や釣り客が訪れます。

また、農村体験や農林産物の加工、農家民宿を通じた集落活性化も地域が主体となり、進められています。

しかし、地域全体で高齢化率が60%を超え、若年人口が著しく少ないため、住民と行政が地域存続の課題に向き合う必要があります。

主な地域資源

飯豊山・鏡山・高陽山などの山々と奥川溪流釣り、川遊び
農林産物加工や農村体験活動の受入れ、奥川七観音、小屋カタクリ鑑賞会、
極入大聖歓喜天祭礼、出戸岩屋虚空蔵尊祭礼、奥川地域づくり協議会、
豊かな自然、美味しい奥川米、古民家・土蔵、集落の風景 など



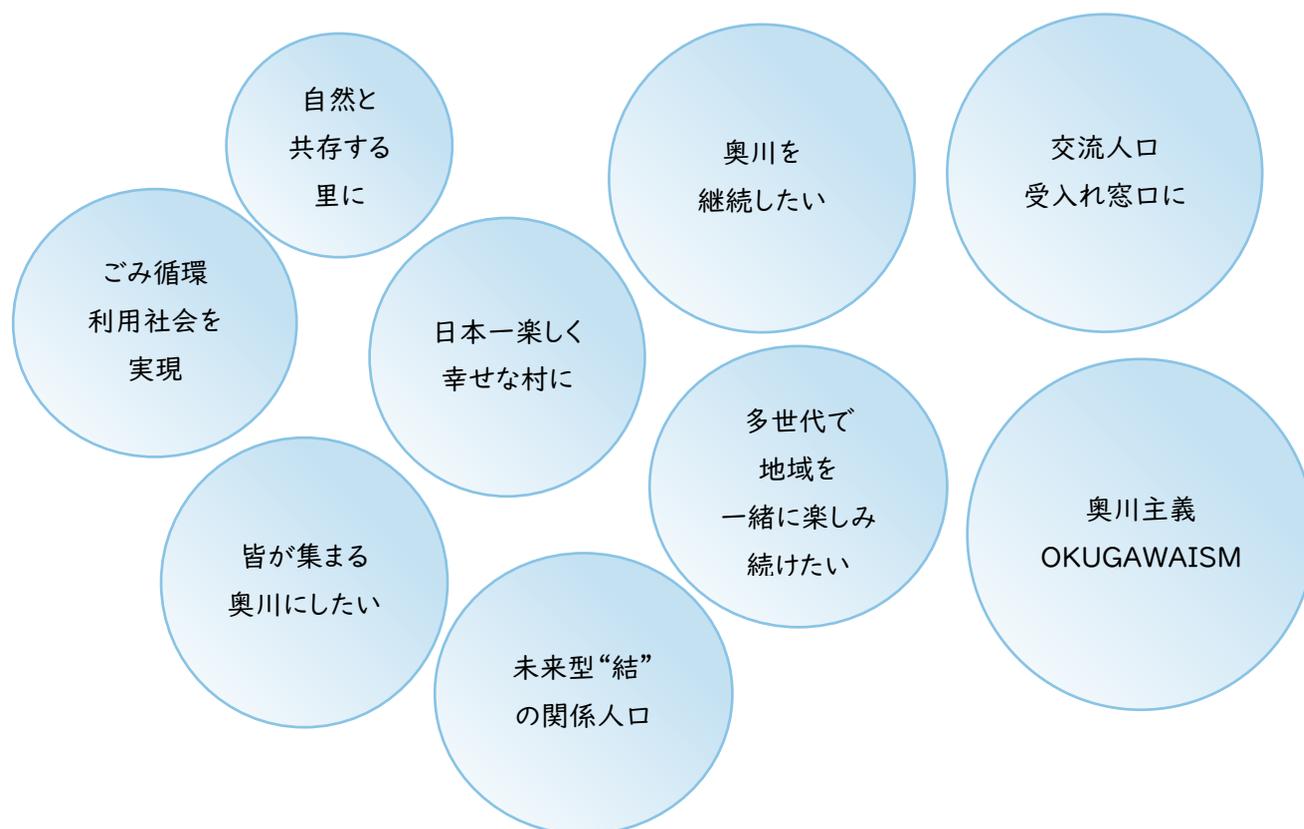
▲奥川地域づくり協議会 定例会



▲小屋のカタクリ

奥川らしい 風景を残し 自然を楽しみ “結”を育む

「奥川地区をこんな地区にしていきたい」 検討の際に出た主な意見



計画期間中実施予定の主な取り組み等

- 担い手の確保・育成（まちづくりのツボ）
- 安心して暮らせる住環境の整備（まちづくりのツボ）
- 有害鳥獣対策の強化（2-1 農林業）
- 観光資源の発掘と磨き上げ（ブラッシュアップ）（2-3 観光・交流）
- 交流人口・関係人口の拡大（2-3 観光・交流）
- 高齢者福祉の推進（3-3 高齢者福祉）
- 3-5 コミュニティ 全般
- 各地区の再生・活性化（5-3 新たなまちづくり）